

4 児童の「できた!」「分かった!」の質を高める学習過程の一場面 (1/11 時)

教師と児童のやり取りの詳細

学び合う段階において、わられる数とわる数に着目して既習の学習と関連付けて考え、 $60 \div 20$ の計算の仕方を考える場面。

わたしは、 $60 \div 20$ を $6 \div 2$ にして計算しました。
 $6 \div 2 = 3$ だから、答えは 3 になると思います。



〇〇さんは $6 \div 2$ と考えているけど、どのように考えて $6 \div 2$ と考えたのか分かりますか？元の式は $60 \div 20$ だったから、 $6 \div 2$ で考えることはできないのではないのでしょうか？

0 を取って考えると、 $60 \div 20$ は $6 \div 2$ にできます。



勝手に 0 を取って式を変えたらだめだと思いますが…。
0 を取るってどういうことですか？この 6 は何を表していますか？



・教師が、分からない児童の気持ちになって、あえて間違った考えを発言することも学び合う段階では有効です。

10 を基にして考えたら、 $6 \div 2$ にして考えることができると思います。
6 は 10 が 6 個、2 は 10 が 2 個ということです。



10 を基にして考えたって説明してくれたけど、どういうことですか？
図や絵を使って説明できる人はいますか？

- ・言葉の説明だけではなく、式に出てくる数と図や絵を関連付けて説明することで、より理解が深まります。
- ・10 を基にして大きさを捉えると 60 を 6 と見ることができるといふ数の見方については、板書の色を変えるなどして残しておきましょう。
- ・数の見方を工夫することで、既習のわり算の式に置き換えられるという児童の発言を引き出し、価値付けましょう。
- ・一部の児童の説明で終わらせるのではなく、隣の友達に再度説明させるなど、説明する活動を充実させましょう。その際、何のために説明する活動を取り入れるのか意図を明確にしましょう。ここでは、数の見方をきちんと理解させるために再度説明する活動を取り入れます。



※ $90 \div 20$ の計算の仕方を考える場面でも、10 を基にして授業を展開していくことができます。



(教師があえて間違った考えを発言して)
 $90 \div 20$ は、4 あまり 1 と考えている人と 4 あまり 10 と考えている人がいますね。
 $9 \div 2$ で考えると、4 あまり 1 だから、4 あまり 10 は間違いだと先生は思いますが…。